

「デザインウィーク」23日から
15年ぶり祭典 大学生ら準備



「NDW」の字をモチーフにしたオブジェを確認する大学生ら＝長久手市の愛知淑徳大で

市内で23日から、15年ぶりにデザインの祭典「ナゴヤデザインウィーク（NDW）」が始まる。
11月4日まで、名駅のシエリアル名古屋高島屋と中村区平池町のグローバルゲート、栄の松坂屋名古屋

店をメイン会場に、各地でデザイン関連のイベントを開いたり展示をしたりする。

熱田神宮周辺の工事現場では、アーティストが作品を展示し、児童らが仮囲いに絵を描く。市内のインテ

リアショップを回るスタンプリーもある。

開幕に向け、大学生らの準備が進んでいる。愛知淑徳大の長久手キャンパス（長久手市）では、有志でつくる実行委員会の副委員長でもある松本佳津教授のゼミ生らが、建材・化成品製造大手のアイカ工業（中村区）が提供した塗り壁材「ジヨリパット」や化粧フィルムを使い、木材や合板製のオブジェの外側を彩る作業を行った。

松本教授は「頑張っている人にスポットライトが当たるNDWにしたい。学生や小さな子どもにも、ものづくりの楽しさが伝われば」と話した。実行委のメール＝nagoyadesignweek@gmail.com（上井啓太郎）

2025年10月21日（火）中日新聞 16面より

この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。

「ナゴヤデザインウィーク」あす開幕

名古屋市内で23日から、15年ぶりにデザインの祭典「ナゴヤデザインウィーク（NDW）」が始まる。

11月4日まで、名駅のジェイアール名古屋高島屋と中村区平池町のグローバルゲート、栄の松坂屋名古屋店をメイン会場に、地元企業や大学生らが各地でデザイン関連のイベントを開いたり展示をしたりする。

熱田神宮周辺の工事現場では、アーティストが作品を展示し、児童らが仮囲いに絵を描く。市内のインテリアショップを回るスタンプラリーもある。

苦心の和紙ツリーで彩りを

長久手市の愛知淑徳大創造表現学部でインテリアデザインについて学ぶ松本佳津教授のゼミ生12人が15日、同大で和紙を使ったクリスマスツリーを制作した。ツリーは23日からのナゴヤデザインウィークで、松坂屋名古屋店7階に飾り、イベントを彩る。

ツリーにオーナメントを飾り付ける学生ら＝長久手市の愛知淑徳大で



愛知淑徳大生が制作 松坂屋名古屋店で展示

材料の和紙は強化和紙や強化障子紙を製造する「ワロン」（名古屋市）が提供。通常の和紙よりも丈夫で燃えにくい同社の「ワロンシート」などを使い、クリスマス飾りのオーナメントを作ってツリーに飾り付けた。同社の渡辺友莉取締役は「ものづくりで素材

はとても大切だが、学生がそれを触れる機会はなかなかないと思う。失敗と成功を繰り返してものづくりの面白さを感じてもらえたら」と話す。

完成したツリーは高さ約240センチ。会場では柱の3面に同じものを飾り、より立体的なツリーに見立てるという。制作した佐野暖真さん（20）は「普段は模型を作ってた方が多い。今回実際に作ってみて、紙がたわんでしまうなどうまくいかなかった部分もあり、また違った経験ができた」と振り返った。

同ゼミは同イベントで25、26日に松坂屋名古屋店7階で開かれる「インテリアの学校」というワークショップにも出展。25日に小学生を対象に愛知のお菓子で家を作る体験を開く。

（宮下爽）

2025年10月22日（水）中日新聞 14面より

この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。